

「市民、学生と歩く台湾エコツアー」報告

代表理事 北川秀樹

環境保全ネットワーク京都では、2019年3月1日～6日の5泊6日の日程で、環境、自然、歴史に焦点を当てた台湾ツアーを企画、実施しました。本ツアーは、龍谷大学ボランティアNPOセンターの「海外体験学習プログラム」としての位置づけもあり、大学生6人を含め全員で13人が参加しました。

まず、台湾の南西部の高雄空港に到着後、港湾として発達した町(ハマセン)に残る日本統治時代の洋風建築物をNPO法人スタッフの案内で視察しました。



旧高雄警察署

この後北の台南市に移動し宿泊、二日目朝は市の環境保護教育園区を視察しました。ここは市の管理運営で市民が持ち込んだ古い家具などを修理し、新品同様に生まれ変わった作品をオークションで売却しており、リユース、リサイクルを推進しています。台湾ヒノキなどの家具は大変人気があるとのことでした。



ヒノキのテーブル

この後、台南市にある国立成功大学を訪問、社会科学院の学生と日本から参加の学生が、自然、環境、相互の国の事情などについて相互にプレゼンを行い、意見交換しました。午後

からは参加者全員が台江国家公園で乗船、クロヘラツラサギなど多くの渡り鳥の生態を観察しました。



学生交流会



野鳥観察

夜には台南で最も大きな花園夜市に出かけ、ゲームや小吃(シャオチー、軽食)を求め、多くの人で混雑する中で台湾の夜の生活に触れることができました。



夜市風景

三日目は、国立台湾歴史博物館を見学し、台湾島形成の歴史、原住民の生活、日本統治時代の暮らしなどについて認識を深めました。



歴史博物館展示

このあと、レンカク(水雉)といわれる野鳥の保護区(官田レンカク生態教育園区)を訪問しました。開発からいかに野鳥を保護し、農民の生活との両立をはかっているか、現地 NPO のスタッフから報告を受け、野鳥を観察しました。レンカクはヒシ、スイレンなどの実を食し、一妻多夫でオスがヒナを育てるといって大変珍しい鳥で、学校の環境教育の基地として保護が図られていました。



レンカク生息地



ヒシの実を試食

この後、嘉南平野の水がめである烏山頭ダムに移動しました。このダムは戦前に日本人技師・八田與一が指揮して建築したもので、当時不毛の地と呼ばれた嘉南平野を緑野に変えたといわれており、台湾で最も有名な日本人となっています。ダムの周りを全員で散策しました。



ダムをバックに記念写真



八田與一記念像

四日目は、バスで阿里山に向け出発しました。途中、お茶栽培農家(日紅製茶)を訪問、製茶の説明を受けました。お昼には森林鉄道の駅・奮起湖に寄り名物の弁当を食べた後、土産物屋街を散策しました。



奮起湖弁当



奮起湖森林鉄道駅

この後、一気に標高 2500m 付近のホテルまで移動し、夕刻にかけて樹齢 1000 年を越すヒノキの散在する林の中を散策しました。快適な気候とすがすがしい森林浴を堪能し、心身のリフレッシュができました。

五日目早朝は森林鉄道に乗車し、ご来光を観察しました。残念ながらやや雲に覆われた天候でしたが、わずかに覗いた太陽を見ることができました。



ヒノキの前で



ご来光



森林鉄道

この後、一気に台北まで直行し、忠烈祠で衛兵の交代を見ました。台北の夜は、土産を買ったり、マッサージに行ったりと、それぞれ自由に楽しみました。



忠烈祠衛兵交代式

参加者からは、「自然を満喫できた」「普通の観光ツアーでは味わえない」などの声が寄せられ、満足度の高いツアーとの評価をいただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。